

タリフジ 2024年(令和6年)3月23日



最大の顧客である米国アップルの要請があったとした。

情報サイト「ニッポンドットコム」に「台湾の半導体メーカー、なぜ日本で次々と工場を建てるのか」と題する記事が掲載され(執筆は桜美林大学大学院の山田周平特任教授、世界最大の半導体受託生産会社(ファウンドリー)である台湾積体電路製造(TSMC)などが日本に進出する背景を伝えた。

その1つとして、台湾に半導体工場が増え過ぎて、水、電力、土地、現場の作業者、高度人材の「5欠」(5つの不足)に陥っていることなどを紹介。また、TSMCが熊本に工場を建設したのは、

アップルはiPhone

eのカメラの画像センサーを供給するソニーに協力し、ソニーの工場がある熊本県菊陽町の近くで半導体を供給することを求めた。ソニーにとっても半導体の安定調達は大きな課題だった。で、TSMC誘致のために尽力した。ソニーとTSMCの縁はそれだけではない。

この2月のTSMCの第1工場の開所式に登場したTSMC創業者の張忠謀(モリス・チャン)氏は挨拶で、ソニー共同創業者の盛田昭夫氏との縁を話した。

1968年、米国の半導体大手テキサス・インスツルメンツ(TI)の副社長として初来日した張氏は、盛田氏と合併事業について話し合った際、当時すでに伝説的な人物だった盛田氏から「日本での工場の生産性の高さに驚くだろう」と言われたという。のちにTIが

TSMC いま一番頼りになるのは日本

九州のみならず他の地方もチャンス逃すな

ループの埼玉・鳩ヶ谷工場や大分・日出工場をたち上げたときに盛田氏の言うことを実感した。

「その後、李登輝総統に請われて台湾に移住し、87年に新竹ハイテク団地にTSMCを創業したのも、日本と台湾は文化や人材の能力という点で似ているということも理由の1つ」「ソニーの隣で工場をつくるのも、そのときの盛田さんとのつながりもある」などと語っていた。

TSMCは菊陽町に第2工場の建設も明らかにしている。第1工場ではソニーの画像センサー向けが中心だったが、第2工場では線幅6ナノ(ナノは10億分の1)の先端半導体を生産する。自動車やADAS(先進運転支援システム)など自動車の中心となり、輸出の拠点にもなりそう。

さらに、最先端の第3工場建設についても触れ

ている。菊陽町は現在でも人が増えて人件費や住宅費などの高騰に頭を悩ませているが、将来はもっと大変なことになるかもしれない。

TSMCは最先端2ナノの工場を台湾の高雄にもつくっている。中国でも江蘇省昆山市に工場があるが、米政府による半導体技術の対中規制などで半導体チップに関税がかけれ、米国に輸出できない状況になった。これも日本に集中している要因だ。

実はTSMCは米国アリゾナ州での工場建設を決めていた。しかし、地元建設業の労働組合との調整が長引いて、まだ動き出していない。日本より早く始めていたが、うまくいっていない。

というようなこともあって、熊本の方がテンポも速く、TSMCにとつては、いま日本が一番頼りになると考えている。もちろん、第1工場だけ

で総投資額が1兆円を超える熊本の半導体工場に對し、日本政府から出る巨額の補助金も大きな魅力だ。

かつてDRAM全盛時代にシリコンアイランドと呼ばれていた九州が再び半導体で復活しつつあるのは喜ばしい限りだが、日本の他の地方もAIブームに沸く経済のおこぼれを享受できるよう頑張ってもらいたい。

関連動画
要チェック!

ビジネス・ブレイクスルー(スカパー!557チャンネル)の番組「大前研一ライブ」から抜粋。

※動画閲覧に関し、タブレットで最適化されています。スマートフォンではタップ、拡大してご覧下さい。